

としょかんゆうびん 高学年向け 令和3年秋

相生市立図書館 0791-23-5151

10・11・12月の行事とカレンダー

10月

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	*	*	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	*	*	*	*	*	*

パネルシアター

10/17 (日)
11:00~11:30
「3つのお願い」ほか

シネマサロン

10/30 (土)
14:00~ (87分)
「恐竜超伝説 劇場版
ダーウィンが来た！」

おはなし会

10/24 (日) 11:00~11:30
えほん『しょうぼうじどうしゃじぶた』
おはなし「絵姿女房」ほか



11月

日	月	火	水	木	金	土
*	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	*	*	*	*

リコーダー

11/14 (日)
11:00~11:30
「そらいろ♪コンサート」

シネマサロン

11/27 (土)
14:00~ (107分)
「アルプスの少女ハイジ」

おはなし会

11/28 (日) 11:00~11:30
えほん『すてきな三にんぐみ』
おはなし「ちいちゃい、ちいちゃい」ほか



12月

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	*

人形劇

12/5 (日)
11:00~11:30
「ちいさな星の子と山ねこ」

えいが会

12/25 (土)
10:30~11:30
「Donald Duck」
「クリスマスのおくりもの」
「マッチウリの少女」

おはなし会

12/26 (日) 11:00~11:30
えほん『しんせつなともだち』
おはなし「山の上の火」ほか



■…お休み

※体調の悪い人は行事に参加できません。

開館時間…午前9時~午後7時

※行事に参加するときは、検温・手指の消毒・マスクの着用をお願いします。

ほん おすすめの本



『科学でナゾとき！』 あさだりん・作 佐藤おどり・絵//偕成社//91-ア

この本の主人公は自称パーフェクトな小学生・鈴木彰吾。6年生になれば児童会長をつとめることが決まっています、小学校最後の一年間もパーフェクトな学校生活を送れるはずだった。ところが、仕事の都合ではなれて暮らしていた父親がこちらに帰ってくることになり、状況は一変。父親は理科の教師で、4月から彰吾の住む市内の小学校をまわりながら、とくべつ講師として科学実験の指導をするという。少し変わっている父親と親子であることを知られたくない彰吾は、学校では二人の関係を秘密にすることを決める。



『流星と稲妻』 落合由佳・著//講談社//91-オ

小学6年生の阿久津善太は、出前授業で剣道のもはん試合をするよう先生からたのまれる。剣道は6才から習い始め、善太がただひとつ続けているものだった。相手は蓮見宝、5年生の3学期に東京から転校してきた同級生だ。その場で勝利宣言をした善太だったが、試合では宝に「面抜き胴」を決められ負けてしまう。

『右手にミミズク』 蓼内明子・作 nakaban・絵//フレーベル館//91-タ

タケルは6年生になった今も、右と左をとっさに判断することができない。3年生のときからいっしょにいるコウとソウシにも話したことはなかったが、これ以上はかくせないと思っただけ。タケルはとうとうふたりに打ち明ける。そのとき、ぐうぜん三人の話聞いていた北沢実里が、黒の油性ペンでタケルの手のひらに「右」「左」と書く。その字はすぐに消えてしまうが、タケルはこれをきっかけに本気で右と左を覚えたいと思い…。

『ガラスの犬』 フランク・ボーム・作 坂口友佳子・絵 津森優子・訳//岩波書店//93-ゴ

あるとき、マーサがたまたま家にひとりきりになることがありました。はじめは人形あそびをしていましたが、屋根裏部屋に使っていない人形の家があることを思い出して、手入れをしようと取りに行きます。人形の家を見つけると、うしろに置いてあった大きな衣装箱が目に入ります。それはおじさんが送ってきたものでした。箱には鍵がかかっている開きません。どうしても中身が気になるマーサは、なんとか鍵を見つけてます。

鍵を開けると、ふたが勝手に開いて…。

少し不思議でゆかいなおはなしが、全部で8つ入っています。



『5000キロ逃げてきたアーメット』

オンジャリ Q. ラウフ・作 久保陽子・訳//学研プラス//93-ラ

あたらしい学年が始まってまもなく、アレクサのクラスに転校生がやってきました。転校生の

なまえはアーメット、なんだかびくびくして悲しそうな顔をした男の子でした。アレクサはさっそく三人の親友といっしょに、アーメットと友達になろうと行動します。放課後なら話しかけるチャンスがあると思ったアレクサたちは、アーメットが学校から出てくるのを待つことにします。アーメットを待つ間、子どもをむかえに来ていた保護者たちが、アーメットのことを「難民の子」と言っているのが聞こえてきました。最初はどのような意味が分からなかったアレクサたちですが…。



『とぶ船 上・下』 ヒルダ・ルイス・作 石井桃子・訳//岩波書店//93-ル

ある日、ピーターは歯医者さんに行った帰りに、町を散歩することにしました。いろいろな店をのぞきながら、ピーターは船のおもちゃがほしいと思いました。なかなか気に入るものが見つからず、あきらめて海へ向かおうとしていると、古い家がならんだ、せまくてうすぐらい通りに出ます。見たことがない場所でしたが、そこで小さなお店を見つけます。窓をのぞきこむと、小さな船が目に入りました。一目で気に入ったピーターは、気がつくお店の中に立っていて、おくから一人のおじいさんが現れます。

『〈死に森〉の白いオオカミ』

グリゴリー・ディーコフ・作 ディム・レシコフ・絵 相場妙・訳//徳間書店//98-デ
物語の舞台はロシア・ヴィソツコエ村。はるかむかし、北からやってきた人びとがこの地に住みつき、村をつくった。やがて村に住む人が増えると、村人たちは新たな土地を求めて、川の向こう岸にある森を焼きはらおうと考えた。そのとき、村いちばんの年寄りであるテレンチーは、森を焼きつくしてはならないと強く反対する。テレンチーの先祖の教えによれば、森にはばけものがすんでいて、森に目を光らせていると。男たちは今の苦しい生活を思い、耳を貸さなかった。ところがその後、村人がオオカミにおそわれるようになり…。

ほんものがたり 本にまつわる物語

『希望の図書館』 リサ・クライン・ランサム・作 松浦直美・訳//ポプラ社//93-ク

母親を病気でなくした直後、ラングストンは、ふるさとであるアメリカ南部のアラバマ州から、北部の町シカゴへ引っこしてきます。都会の雰囲気や父親と二人きりの生活になかなか慣れることができず、学校では同級生から「南部のいなかもん」とからかわれる毎日をおくっていました。ある日、学校からの帰りに道に迷ったラングストンは、とびらの上に〈シカゴ公共図書館〉と書かれた建物を見つけます。母親から黒人は図書館に入れないと聞かされていましたが…。



『ぼくたち負け組クラブ』

アンドリュー・クレメンツ・著 田中奈津子・訳//講談社//93-ク

小学6年生のアレックは、授業中も本を読むことをやめられないほど本が大好きです。新学期になり、アレックは両親の仕事の都合で、放課後の3時間を学校で過ごさなければなりません。そこで、各自がただひたすら好きな本を読むだけの読書クラブをつくりました。その名も「負け組クラブ」。クラブの名前からわかるように、メンバーを増やすつもりはなかったアレックですが、意図せずしてメンバーは増えていきます。

『不思議を売る男』

ジェラルディン・マコーリアン・作 佐竹美保・絵 金原瑞人・訳//偕成社//93-マ

エイルサは、課外レポートのために見学に行った図書館で、一人の若い男に声をかけられます。その男はここ数日このあたりをうろついているらしく、副館長のミレットさんは警察を呼んで男を追いだそうとします。エイルサはその男にうっかり、母親は中古の家具などをあつかう店をやっていて、店員を募集していると話してしまいます。エイルサが断りきれずに店に連れて帰ると、男はMCC・バークシャーと名乗り、ひとまず働かせてほしいと言います。次の日、男は店で一日中本を読んでいましたが、その次の日、一人の老紳士がやってきて、大きな置き時計に興味を示すと…。

インフィクション

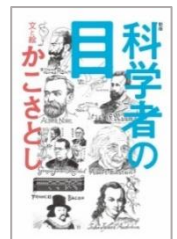
『科学者の目』 かこさとし・文と絵//童心社//40

科学者と聞くと、だれを思いうかべますか。

エジソン？アインシュタイン？それともニュートンでしょうか？

この本には、41人の科学者の伝記がまとめられています。なかにははじめて名前を聞くような人物もいるかもしれません。一人の人物について書かれて

いるページは、4～6ページととても短いですが、科学の歴史上に残した、かがやかしい業績だけでなく、小さいときどんな子どもだったのかがわかるような話や、育った家庭環境、研究者になるまでの道のりなどもしょうかいされています。



『ことばハンター』 飯間浩明・著//ポプラ社//81

この本の著者である飯間浩明さんは、国語辞典を作る仕事をしています。

みなさんは、国語辞典がどうやって作られているかを知っていますか。

この本には、国語辞典を作る過程はもちろん、飯間さんが小学生だったころの話や、はじめて辞書作りに関わったときのことなどについても書かれています。

読んでみると、著者の「ことばが好き」という気持ちが伝わってきて、ことばのおもしろさや、辞書作りのおく深い世界を感じることができます。

